

小山をよくする会

1 基本データ

大野市小山地区は、平成22年の人口が約2千人、世帯数は約650戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域です。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地しています。



赤枠で囲われたところが小山地区

その歴史は古く、区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在しています。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展をきました。

地域の高齢化率は、平成22年4月1日現在で24.7%。市内9地区の中で最も低く、高齢化率の上昇が懸念される昨今ではありますが、比較的若者が多い地域でもあります。

本事業の実施主体は、区内全戸を会員とする小山をよくする会です。事務局を小山公民館に置き、区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進

委員45人で話し合いをしながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動しています。

2 現状と課題

小山地区は、区長会を中心とした地域住民のネットワークが確立され、恒例の事業について住民有志が関わって地域活動を行っています。

地域独特の事業としては、他地区の球技大会に代わって実施されている集落対抗バレーボール大会や地区老人クラブ「小山福寿会」により、市内の300名を越える園児を招待して行う「さつまいも掘り体験」、住民有志団体主催による「越坂ミニミニコンサート」「黒谷観音星の下コンサート」などがあります。



集落対抗バレーボール大会の様子

小山をよくする会では、地区民を対象とした夏祭りや秋祭り、花壇コンクールなどを行うほか、地域の伝統芸能である小山鉦踊りの保存・継承活動にも取り組んでいます。



小山まつりで披露される小山鉦踊り

また、ここ数年は、地区住民を中心とした新

たな任意グループが、地道な活動を通して地区の歴史資料を調査しています。

平成22年、越前大野城築城430年祭を契機に、調査した歴史資料を展示資料として加工し、広く一般に公開する「小山の里特別展」を開催しました。



小山の里特別展

小山地区では、このような活動を通して、地域コミュニティづくりが行われています。

しかしながら、少子化により、地区の子どもの人数の減少による小学校存続の課題や、一部振興住宅地域での、新住民と旧住民との融和の課題などが年々顕著になってきています。

これらの課題を解決するためには、地区住民が自分の住む地域を好きになり、守り育てていくという住民意識の向上を図っていく必要があります。

これまで小山地区では、前述の様々な地域づくり活動は行われていますが、住民自らが誇りにできるほどの際立った地域特性を生み出せていません。住民が一丸となれるテーマが見つけられていないために、一丸となって地域づくり活動を行おうという機運の高まりもあまり見られないように思われます。

ふるさとを誇る住民意識の啓発を行うためには、住民すべてが共有できる地域テーマが必要となっています。

3 事業の内容

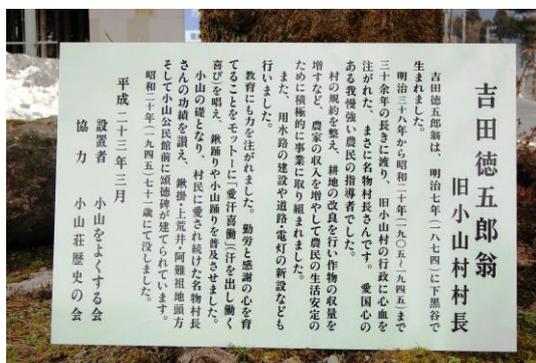
住民が一丸となれるテーマをどう創るのかを考えたとき、今回の事業のテーマである「歴史と文化を活用した地域づくり」を選びました。

現在、活動が活性化してきた歴史グループの協力を得ながら、地域の歴史と文化を今まで以上に知っていただく環境を整備していくことで、住民が地域のことを知り、それがまた、地域を大切に思う心の高揚に繋がるのではないかと考えています。

また、歴史と文化を発信する環境を整備することで、地域が注目され、地域外の交流人口の増加に繋がり、地域経済の活性化にも繋げていけるのではないかと考えています。

具体的には、歴史と文化の里づくり事業という名称で、史跡看板作成と視察研修事業、歴史講演会を実施しました。

史跡看板の作成においては、地区内の主な史跡の謂れを整理し、説明看板15枚を作成しました。



今回作成した史跡看板

計画当初は設置作業も今年度中に完了する予定でしたが、大雪のため、次年度に地区住民の手で設置することになっています。

また、小山地区の歴史に関わりの深い飛騨市神岡地区や高山市、下呂温泉、郡上市郡上八幡地区への視察研修事業を行い、1泊2日の行程に、地区内外から30人が参加しました。



視察研修旅行参加者の皆さん

4回シリーズで行った歴史講座は、将来、小山の歴史や文化について語る語り部の育成を目標に、縄文時代から現代に至るまでの小山地区の歴史や地区内の神社仏閣に関することについて学べる内容とし、各回にそれぞれ約30人、延べ120人余りの参加をいただきました。



第1回歴史講座（縄文～室町）

また地域コミュニティ支援事業と称して、小山地区内15集落に地域づくりの機運を高める



阿難祖地頭方に設置した揭示板

ための啓発看板の設置を呼びかけ、集落ごとに協議をいただき、看板を設置しました。

結果、8集落で、住民の方に設置作業を行っていただき、住宅看板や揭示板等を設置することができました。

4 事業の成果

① 歴史と文化の里づくり事業

史跡看板の制作においては、これまで、地区の史跡を普段から意識していただける環境がありませんでしたが、これで、主な史跡については、普段から小山地区の歴史に触れやすい環境を整えることができました。

視察研修旅行では、訪問地である神岡地区において、小山荘にあった面谷鉦山を開発した糸屋彦次郎の功績を肌で感じるとともに、大野に似通った共同水屋を視察できました。



神岡地区の共同水場



素玄寺にて説明を聞く参加者

高山市では、高山市郷土館の田中主任の説明により、前述の糸屋氏と大野を治めていた

金森家との確執の話を伺うとともに、金森家の菩提寺である「素玄寺」等を訪ることができました。

下呂温泉では、飯降山で修行をしたと言われる泰澄ゆかりの彫刻師「円空」の仏像展示を観覧。



展示されていた円空仏

郡上八幡においては、郡上市文化財保護委員の高橋氏から郡上八幡と小山荘との関係について話を伺うことができました。



郡上八幡での講座

視察により、広域の中での小山地区の歴史的な位置づけについて知識を深め、ゆかりの地を参加者が肌で感じることを通じて、地域に対する誇りを醸成することができたように思います。

歴史講座では、縄文時代から現在までの小山地区の歩みを総合的に学んだことを通じて、地区の歴史に関心を持っていただくことができ、将来、小山地区の語り部になっていただ

けそうな人材育成ができました。

全体として、当初の事業目的である「歴史と文化の里・小山」づくりに寄与することができたと思います。

② 地域コミュニティ支援事業

協議の結果、全集落で看板設置の取り組みをするには至りませんでした。すべての集落で、看板を設置するための協議を行っていただき、地域について改めて考えていただく契機を作ることができたと考えています。

また、新たな住宅看板や掲示板等が設置された集落においては、わずかずつではありますが、長い期間を経て、看板が地域コミュニティの形成を啓発していくことと思います。

5 今後の展望

歴史と文化の里づくり、地域コミュニティの活性化とも、単発の事業ではその効果は薄れてしまいます。

「歴史と文化の里・小山」づくりを推進するため、今回設置した史跡看板を活用していくソフト事業を行っていく必要があります。今後、看板修繕のための見回り作業も含め、マップの制作や史跡巡りツアーの実施等を通して、地域の方が地区の歴史に触れる機会を増やしていきたいと考えています。

また、歴史講座など、地区の歴史について学ぶ機会を今後も提供していくとともに、地区の歴史を書物として後世に残していく取り組みを行っていく必要もあります。

地域コミュニティの活性化についても、集落での地域のことを考える機会を持てるような継続した取り組みを続けていきたいと思っています。

そして、交流人口を増加させるためには、事業で環境整備した地域の魅力を積極的に発信していくことが重要となるでしょう。

小山をよくする会では、これらの展望を持って、住民自らが地域づくりに取り組む機運を盛り上げながら、今後も頑張っていきたいと思えます。